

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 2 月 20 日作成)

小委員会名	明視環境設計小委員会	
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (光環境運営委員会)	
設置期間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設置目的 各年度活動計画 (簡条書き)	<p>既存の明視環境計画手法の適用例・応用例として、ユニバーサルなサイン計画、防災時の避難誘導表示計画、防犯対策を兼ねた街路の光環境計画など、明視性が重視される環境に特化して、明視性を基礎とした具体的な設計法を提案し、その設計用資料を作成する。2008 年度の活動計画は次の通りである。</p> <p>・各委員の専門分野における明視環境設計の位置づけを基に、共通する資料や知見、または相違点の体系的な取り纏めを行い、報告書をまとめる。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：</p> <p>原直也(関西大学), 奥田紫乃(同志社女子大学), 秋月有紀(京都大学非常勤研究員), 飯村治子(東京大学大学院工学系研究科), 井上容子(奈良女子大学), 岩田三千子(摂南大学), 佐藤隆二(大阪工業大学), 土井正(大阪市立大学), 樋村恭一(東京大学), 村上泰浩(崇城大学工学部), 山田常圭(消防研究所), 山家哲雄(日本大学)</p>	
設置 WG (WG 名:目的)	<p>明視環境設計資料 WG: 明視環境設計資料に資するデータの相互の位置づけと整合性を確認する。現有データを用いた標準的な明視環境設計資料の構成を提案する。さらには、標準的な設計資料の整備を推進する。</p> <p>防災照明 WG: 巨大地震など大規模災害時における緊急避難行動及び救助活動を担保する屋外防災照明設備や避難場所等の必要諸要件の検討を行い、将来の大災害時に対する防災照明設備の整備について提案する。</p>	
2008 年度予算	50,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：

項目	自己評価
委員会開催数	4 回
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 環境デザインにおける明視環境設計の現状と課題 (資料名) 同上
大会研究集会	参加者数 24 名
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. シンポジウムに合わせて、小委員会の報告書、各 WG の報告書が纏められており、当初の目的が達成された。
委員会活動の問題点・課題	1. 委員会開催にあたり委員の予定を調整するのが困難であり、効率良くスケジュール調整が可能なシステムを構築することが課題となる 2. 全国各地の委員に集まって頂くことが予算的にも非常に難しい

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。